

1. 調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	鳥取県3170200376
法人名	株式会社ハピネライフケア
事業所名	グループホーム はあとピア
所在地	鳥取県米子市久米町200番地 (電話) 0859-31-8810
評価機関名	有限会社 保健情報サービス
所在地	鳥取県米子市西福原2-1-1
訪問調査日	平成20年3月6日

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

米子市の城山に囲まれて四季の変化を楽しめるとても静かな環境にある。事業所入口には、弘法大師が祭られ日々の朝夕、特に毎月21日の供養祭には多くの参拝者がある。利用者等も散歩がてらお参りし、地域の人々との交流の場になっている。デイサービス・ショートステイ・小規模多機能ホームが併設され、殆どの入居者は、在宅中よりそれぞれのサービスを段階的に利用しながらなじみの関係を作って入所に至り、穏やかな暮らしを続けている。“安心・信頼・平安”をモットーに“家族のようになりたい”と職員は支援をしている。生活空間は3階ではあるが閉鎖的にならないように、広いベランダの有効利用や戸外活動を積極的にいれる計画を進行中である。

【情報提供票より】 (平成 20年 2月 20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 12年 4月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	6 人 常勤 6人, 非常勤 3人, 常勤換算 5.9人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り
	3階建ての 3階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金	有 (円) <input type="radio"/> 無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有 (円) <input type="radio"/> 無	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	400 円
	夕食	350 円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要 (2月 20日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	1	要介護2	5		
要介護3	3	要介護4	0		
要介護5	0	要支援2	0		
年齢	平均 87 歳	最低 81 歳	最高 98 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	米子中海病院、灘尾歯科医院、高島病院
---------	--------------------

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	年頭に事業所独自の理念を職員全員で作成。介護相談員を1~2ヶ月毎に受け入れている。また、成年後見制度を利用する入居者があり市の福祉課との連携も多くなっている。入浴日の固定化については“風呂の日とのんびりする日”生活にメリハリがあると利用者には好評である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員で自己評価票を作成した。前回の外部評価の結果も是正会議を開き改善点である「理念」を作った。市町村への働きかけも積極的に行い、ベランダの開放・災害時の備蓄などできる部分から取り組まれている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議を通じて事業所の状況報告を行い助言を頂く等、地域住民との距離が近くなってきている。利用者家族の参加は毎回あるが、今後利用者が参加し意見を聞いてもらえる場になるような支援を期待したい。市の福祉課との連携も多くなっている。回を重ね、災害時など地域の人々の協力が得られるよう努力されることを望みます。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	日頃 面会時や電話等での意見・苦情も、意見箱の利用も殆どない。併設事業所への意見・苦情等がある時には、職員に周知徹底し、サービスや運営に反映させている。遠方の家族もあり、日常の生活ぶり・エピソードなど記載し送付等の対応をすることで家族も安心感が増し共通の話題で信頼関係が一層深まり意見や苦情が出し易くなるのではと感じます。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	お大師さんに参拝される方々との交流、公民館での介護教室、最近では小学生のボランティア活動の受け入れも始まっている。職員の家族(特に子供達)に夏休み春休み長期ボランティア参加を募り、入居者との交流や認知症理解を広めようとの構想があり今後計画が発展する事が期待される。

2. 調 査 報 告 書

主任調査員氏名 中村 由加里 / 同行調査員氏名 川上 喜久枝

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域の中で その人らしく家庭的に暮らし続けることを支えていく」 年頭に事業所独自の理念を職員全員で考え作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	あたらしい管理者と職員は理念を共有し、介護の現場で「家族のようにになりたい、一日がゆっくりと穏やかに過ぎていくように」日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所の入口にあるお大師さんに参拝される方々との交流をはじめ開設以来続けている公民館での介護教室や小中学生のボランティア活動の受け入れも始まってきた。		事業所で働く職員の家族(特に子供達)に夏休みや春休みの長期ボランティア参加をつのり、入居者との交流や認知症理解を広めようとの構想があり 今後計画が発展する事が期待される。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で自己評価票を作成した。前回の外部評価の結果も是正会議を開き、改善点である「理念」を作り、市町村への働きかけを積極的に行う、ベランダの開放、災害時の備蓄などできる部分から取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を通じて月の行事案内・利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告し助言をいただくなど地域住民との距離が近くなった。利用者家族の参加も毎回ある。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護相談員を1～2ヶ月毎に受け入れサービスの質の向上に取り組んでいる。また、成年後見制度を利用する入居者もあり、市の福祉課との連携も取り合っている。		


外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月金銭管理状況と「キラキラ新聞」でホームでの暮らしぶりを家族へ報告している。面会の多い家族にはその都度状況報告している。	○	遠方の家族もあり、日常の生活ぶり・エピソードなど記載して送付等の対応をする事で家族も安心感が増し 信頼関係が一層深まると感じます。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃 遠慮なく意見を言ってもらえるような雰囲気づくりをしているが、面会時や電話等での意見・苦情も意見箱の利用も殆どない。併設事業所への意見・苦情等がある時には、職員に周知徹底し、サービスの質の向上に活かしていつている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	日頃、デイやショート利用者と合同で行事を行ない、他の職員にも馴染みになれるよう取り組んでいる。勤務も一部ローテーションして馴染みの関係づくりに配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人としての各種研修計画が整っている。法人内での研修や報告会など、ほぼ勤務時間内に多くの職員が参加し働きながらのトレーニングをしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者同士の相互研修に毎年交代で参加している。法人以外の施設での体験は新鮮で日頃のケアの振り返りや発見となり、法人内研修報告会で職員全員のサービスの質の向上につなげている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	デイサービス・ショートステイ・小規模多機能ホームが併設され、殆どの入居者は、在宅中よりそれぞれのサービスを段階的に利用しながらなじみの関係をつくり入所となる方が多く、本人も家族も不安なくサービス利用となっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入所前から職員との馴染み関係ができていく方が多く、職員も「家族みたいな関係 休憩時間も傍にいたい 夕方は後る髪引かれる思いで帰ります。利用者の『また来てね!』の声にいつも元気をもらっている。」事が聞き取りで確認できた。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ベランダの活用を提案したら「畑を作って野菜を育てたい！」等活発な希望も表明された。最高齢95歳の利用者は食事以外の時間はソファで横になって仲間の声を聞きながら日を過ごす等、それぞれの意向を汲み取って個別に対応している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	主治医を交え職員全員でカンファレンスを行い、介護計画を作成しているが、家族・本人の意見や意向が組み込まれていないのが残念。	○	「のんびり・ゆったり」の方針は閉じこもり傾向にある入居者のADLの低下につながるのではと感じられる。事業所周辺の豊富な自然環境を窓の借景に止めず、心身の活力を高めるリハビリの場所として活用できるよう工夫した介護計画がなされることを期待します。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	上記同様に3ヶ月毎に見直しがされている。日々の様子を介護記録や申し送りノートで情報を共有し、変化が生じた場合には必要に応じてカンファレンスし見直しを行っている。	○	本人・家族が「希望や意見は何もない」と言われたとしても言葉の裏にある「いつまでも自分のことは自分でしたい、元気で長生きして欲しい…」等利用者の思いを感じ取った見直しができる事を期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	緊急の受診などで家族が都合がつかないときには職員が受診同行したり、なじみの美容院へ送り迎えするなど柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望する利用前のかかりつけ医を大切にしている。それぞれ2週に1回の往診を受け複数の医療機関と関係を密に結んでいる。緊急時には時間を問わず訪問診療を受けるケースもある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	法人の方針として「重度化や終末期は受け入れない」となっていて、利用当初に家族には了解を得ている。現場職員としては終末まで支援したい思いが高まってきている。	○	本人や家族の意向、本人にとってどうあったら良いのか、事業者が対応できる最大の支援方法を踏まえて、方針を事業所全体で話し合われることを希望します。また、変化する介護保険制度に合わせて、法人としての柔軟な取組に今後期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	訪問日の昼食中にトイレに行きたくなった利用者が立ち上がるとズボンがズレて肌が露出している場面が見受けられた。職員はさり気なく傍にあった布で腰を被い、プライバシーに配慮した声かけで対応されていた。個人情報保護に関しては書面にて家族の同意を得ている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	新聞広告を一緒に見ながら買物の計画を練る方、デイ利用の友人とおしゃべりを楽しみに待つ方、二組の夫婦はそれぞれ寄り添うように過ごしている。午後の体操の時間は強制ではないが利用者の殆どが楽しげに声を上げて唄いながら身体を動かしていた		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼夜の副食は業者に委託している。好みの食材を買い込んで、主食を芋ご飯にとか具沢山の味噌汁等工夫しながら利用者が主役で作る楽しみを味わっている。もう一つの楽しみは手作りおやつ、小規模多機能ホーム利用者も一緒に合同で賑やかに楽しむこともある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	月水金はお風呂の日。風呂は3~4人が一緒に入れる広さがある。気の合ったもの同士と一緒におしゃべりをしながらのんびりと入浴を楽しむ。夫婦で入浴が楽しめるような配慮もしている。“風呂の日とのんびりする日”生活にメリハリがあると利用者には好評である。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	鉢物の管理、食事作り、後片付け・洗い物、洗濯物たみ等それぞれの生活歴やレベルに合った役割がある。入浴後の1本の缶ビール、携帯電話を持ち込み家族といつでも話ができるのも楽しみの一つとなっている。月1回の外出食事は利用者全員が心待ちにしている行事の一つとなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	遠方の家族が帰省され自宅への外泊が定期的になされる利用者もある。週に1回の買物はそれぞれが新聞広告などで欲しい物を決めて近くのスーパーまで出かける。個別の外出支援は検討するも取り組みまでには至っていない。	○	平成20年2月より新しい施設長が着任。「生活空間を広げたい、外出支援をできるだけ多くしていきたい。」と意欲的であり今後が期待される。
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	建物の玄関は開放的だが当事業所は3階にありエレベーターで遮断された空間、昨年度までは広いベランダも施錠されていたが、今年度からは、ベランダを開放し草花を育て、日光浴も自由にできるようになった。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間を想定して、利用者と一緒に避難訓練を実施された。また、緊急連絡網の電話による通報訓練も実施された。水・缶詰・代用食など災害備蓄もあり、食料については業者と委託契約されている。	○	周辺に民家がないという立地であり、災害時は地域の協力が不可欠と考える。運営推進会議を通じて地域の人々の協力が得られるよう努力されることを望みます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	食事は業者に委託されており、栄養価・バランス・食 べ易さ等考慮されている。日に何回も小まめに水分 補給のサービス、主食を工夫(芋ご飯等)して季節 感が味わえるようにと支援している。		
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台 所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者 にとって不快な音や光がないように配慮 し、生活感や季節感を採り入れて、居心 地よく過ごせるような工夫をしている	ビルの3階にあるにもかかわらず広いベランダの 中の花壇や借景の木立は生活空間の広がりや季節 感が味わえる。共用空間は観葉植物や職員が工夫し た本棚など多く取り入れ、家庭的な居場所造りが各 所にできていた。昼食前には味噌汁とご飯の炊ける 匂いが食事時間を告げていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や 家族と相談しながら、使い慣れたものや 好みのものを活かして、本人が居心地よ く過ごせるような工夫をしている	居室はそれぞれが使い慣れた家具や机などを持ち 込まれ、生活感を漂わせている。我が家の居室のよ うな居心地の良さ・雰囲気を感じさせていた。		

※  は、重点項目。